

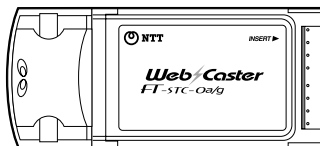


Web Caster
FT-STC-Oa/g

詳細取扱説明書

このたびは、Web Caster FT-STC-Oa/g
をお買い求めいただきまして、まことにあり
がとうございます。

- ご使用の前に、この「詳細取扱説明書」を
よくお読みのうえ、内容を理解してからお
使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなど
いつも手元に置いてお使いください。



目次

マニュアルの見かた	3
-----------------	---

1 ドライバをインストールしましょう

ドライバ・ユーティリティをインストールしましょう	1-2
Windows® XPの場合	1-3
Windows® 2000の場合	1-6
Windows® Me/98SEの場合	1-9

2 無線LANを接続してみましょう

アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード) ...	2-2
Windows® XPの場合	2-3
Windows® 2000/Me/98SEの場合	2-7
通信内容を暗号化しましょう	2-11
Windows® XPの場合	2-12
Windows® 2000/Me/98SEの場合	2-16
他の無線LANステーションカードと通信しましょう (アドホック・モード)	2-23
Windows® XPの場合	2-24
Windows® 2000/Me/98SEの場合	2-27
ユーティリティソフトを使用しましょう	2-31

3 付録

トラブルシューティング	3-2
インストールの状態を確認するには	3-4
本商品をPCから取り外す場合は	3-6
本商品 (ソフトウェア) を削除する場合は	3-7
用語解説	3-11
索引	3-15

マニュアルの見かた

必要に応じて、以下の順番にお読みください。

1. ドライバをインストールしましょう



2. 無線LANを接続してみましょう

ドライバ及びユーティリティのインストール等について説明しています。

各OSにより作業内容が異なりますので、ご注意ください。

アクセスポイントや他の無線LAN製品との接続、通信内容の暗号化について説明しています。また、ユーティリティの使い方を説明しています。

1 ドライバをインストールしましょう

ドライバ・ユーティリティを
インストールしましょう 1-2

ドライバ・ユーティリティをインストールしましょう

本商品を使用する場合には、はじめにドライバをインストールする必要があります。
ご使用のパソコンのOSごとにインストール方法が異なりますので、OSの種類に合わせて以降のインストール方法をご覧ください。

- OSがWindows® XPのパソコンをご使用になる場合
 - 次ページ以降のWindows® XPの場合を参照して、インストールを行ってください。
- OSがWindows® 2000のパソコンをご使用になる場合
 - 次ページ以降のWindows® 2000の場合を参照して、インストールを行ってください。
- OSがWindows® Me/98SEのパソコンをご使用になる場合
 - 次ページ以降のWindows® Me/98SEの場合を参照して、インストールを行ってください。
- インストールするには以下の点にご注意ください。
 - ・ インストールを行う前に、全てのアプリケーションを終了させてください。
 - ・ 本商品はスタンバイモードには対応していません。
本商品をインストールする前に、ご使用のパソコンの取扱説明書等をお読みになり、スタンバイモードを解除しておいてください。
 - ・ インストールを行っている途中で、お客様のご使用になられているパソコンの状態によって、OSのCD-ROMを挿入するように指定される場合があります。その際は、パソコンの取扱説明書等をお読みになり、指定の作業を行ってください。



お知らせ

- ウィルスチェックプログラムが起動している状態でインストールを行うと正常にインストールが完了しない場合があります。インストール作業はウィルスチェックプログラムを一時的に終了してから行ってください。

Windows® XPの場合

- 1 パソコンの電源を投入し、Windows® XPを起動します。その際、必ず Administrator権限のあるユーザでログインしてください。



お知らせ

- この時点では、本商品（カード本体）をPCカードスロットに挿入しないでください。パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合、ドライバのインストールに失敗する恐れがあります。

- 2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMをセットすると、次のメニュー画面が自動的に起動します。

起動したら、[ドライバのインストール] をクリックします。
ダウンロード確認画面が表示されますが、[開く] をクリックしてください。



- 3 インストール確認画面が開きます。[次へ] をクリックします。



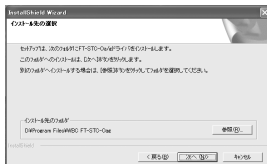
（次ページに続く）

ドライバ・ユーティリティをインストールしましょう

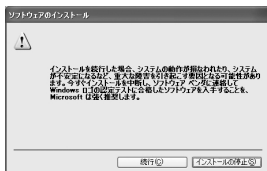
- 4 使用許諾契約書の画面が開きます。
内容を確認の上、宜しければ [同意する] をクリックします。



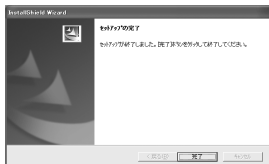
- 5 インストール先の選択画面が開きます。
ドライバのインストール先を変更される場合は [参照...] をクリックして、インストール先を指定します。変更の必要が無ければ、[次へ] をクリックします。



- 6 以下のような確認メッセージが出ます。
[続行] をクリックしてインストールを続けます。



- 7 インストールが完了するとセットアップの完了画面が表示されます。[完了]をクリックしてください。



- 8 本商品（LANカード本体）のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。



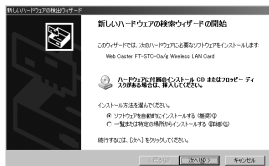
お知らせ

- PCカードスロットの位置・使用方法については、お使いのパソコンにより異なります。わからない場合にはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

- 9 下記のウィンドウが表示されます。



- 10 また、新しいハードウェアの検索ウィザード画面が表示されますので、そのまま[次へ]をクリックしてください。カードが正しく認識されると、右下のような確認メッセージが出ます。[続行]をクリックの後、インストールが完了します。



以上でインストール作業は完了しました。
引き続き、ドライバのインストール状態を確認してください。手順については本書の付録「インストール状態を確認するには」をご覧ください。

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

Windows® 2000の場合

- 1 パソコンの電源を投入し、Windows® 2000を起動します。その際、必ず Administrator権限のあるユーザでログインしてください。



お知らせ

- この時点では、本商品（カード本体）をPCカードスロットに挿入しないでください。パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合、ドライバのインストールに失敗する恐れがあります。

- 2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMをセットすると、次のメニュー画面が自動的に起動します。

起動しましたら、[ドライバのインストール]をクリックします。

ダウンロード確認画面が表示されますが、[開く]をクリックしてください。



- 3 インストール確認画面が開きます。[次へ]をクリックします。



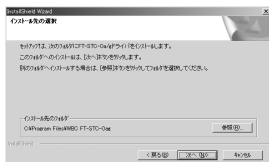
4

使用許諾契約書の画面が開きます。
内容を確認の上、宜しければ [同意する] をクリックします。



5

インストール先の選択の画面が開きます。
ドライバのインストール先を変更される場合は [参照...] をクリックして、インストール先を指定します。変更の必要が無ければ、[次へ] をクリックします。



6

以下のような確認メッセージが出ます。
[はい]をクリックしてインストールを続けます。

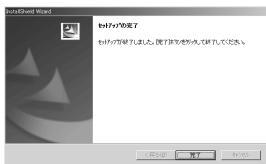


(次ページに続く)

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

- 7 インストールが完了するとセットアップの完了画面が表示されます。[完了]をクリックしてください。

ご使用のパソコンの状態によっては、再起動を要求される場合があります。



- 8 本商品（カード本体）のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。



お知らせ

- PCカードスロットの位置・使用方法については、お使いのパソコンにより異なります。わからない場合にはパソコンの取扱説明書等をご覧ください。

- 9 下記のウィンドウが表示されます。



- 10 カードが正しく認識されると、以下のような確認メッセージが出ます。[はい]をクリックしてインストールを続けます。



以上でインストール作業は完了しました。引き続き、ドライバのインストール状態を確認してください。手順については本書の付録「インストールの状態を確認するには」をご覧ください。

Windows® Me/98SEの場合

- 1 パソコンの電源を投入し、Windows® Me/98SEを起動します。



お知らせ

- この時点では、本商品（カード本体）をPCカードスロットに挿入しないでください。パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合、ドライバのインストールに失敗する恐れがあります。

- 2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMをセットすると、次のメニュー画面が自動的に起動します。

起動しましたら、[ドライバのインストール]をクリックします。

ダウンロード確認画面が表示されますが、[開く]をクリックしてください。



- 3 インストール確認画面が開きます。[次へ]をクリックします。



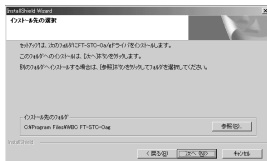
（次ページに続く）

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

- 4 使用許諾契約書の画面が開きます。
内容を確認の上、宜しければ [同意する] をクリックします。

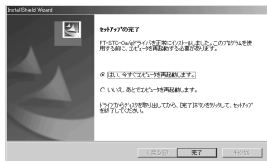


- 5 インストール先の選択画面が開きます。
ドライバのインストール先を変更される場合は [参照...] をクリックして、インストール先を指定します。変更の必要が無ければ、[次へ] をクリックします。



- 6 インストールを完了するために、パソコンの再起動を要求しますので、[完了] をクリックしてください。

ご使用のパソコンの状態によっては、再起動を要求される場合があります。



- 7 本商品（LANカード本体）のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。



お知らせ

- PCカードスロットの位置・使用方法については、お使いのパソコンにより異なります。わからない場合にはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

- 8 カードが正しく認識されると、下記のウィンドウが表示されます。



お知らせ

- お客様のご使用になられているパソコンの状態によって、インストールの途中にOSのCD-ROMを挿入するように指定される場合があります。その際は、パソコンの取扱説明書等をお読みになり、指定の作業を行ってください。

以上でインストール作業は完了となります。引き続き、ドライバのインストール状態を確認してください。手順については本書の付録「インストールの状態を確認するには」をご覧ください。

- アクセスポイントと通信しましょう
（インフラストラクチャ・モード）… 2-2
- 通信内容を暗号化しましょう …… 2-11
- 他の無線LANステーションカードと通信
しましょう（アドホック・モード）… 2-23
- ユーティリティソフトを
使用しましょう…………… 2-31

アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

本商品と無線LANアクセスポイントと通信する場合の設定方法について記載します。
(アクセスポイントにはWeb Caster X400Vの使用を前提で記載します。)

インフラストラクチャ・モードとは、本商品を搭載したパソコンからアクセスポイントを介し、無線LAN上で通信を行う場合に設定するモードです。

1 アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。

2 アクセスポイントのESSID（ネットワーク名）を確認します。

アクセスポイントの取扱説明書を確認して、ESSID（ネットワーク名）を記録しておいてください。

アクセスポイントのESSIDは、工場出荷設定では「X400V-xxxxxx」となっています。xxxxxxはMACアドレスの下3バイト（6桁）となっています。MACアドレスは、本体に貼られているシールを確認してください。

3 アクセスポイントの暗号キーを確認します。

アクセスポイントの取扱説明書、および実際に設定された装置の状況を確認し、暗号化設定が施されている場合には暗号キー（WEPキーまたは事前共有キー）を記録しておいてください。

なお、ご使用のパソコンのOSによって、設定方法が異なりますのでご注意ください。

- OSがWindows® XPのパソコンをご使用になる場合
→ 次ページ以降のWindows® XPの場合を参照してください。
- OSがWindows® 2000/Me/98SEのパソコンをご使用になる場合
→ 次ページ以降のWindows® 2000/Me/98SEの場合を参照してください。



お知らせ

- ESSIDとは、本商品とアクセスポイント通信時に使用するネットワーク識別用のIDです。ネットワーク毎にESSID（ネットワーク名）を設定することにより、ネットワークに参加できる子機を制限することが可能です。

Windows® XPの場合

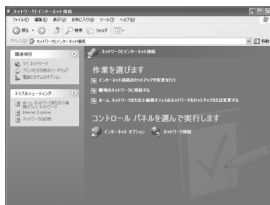
この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。
カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。



お知らせ

- Windows® XPをご使用の場合はその他のOSと異なり、XP標準のユーティリティを使用して設定を行いますので、ご注意ください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックした後、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ネットワークとインターネット接続] をクリックします。
コントロールパネルを「クラシック表示」に変更している場合は[ネットワーク接続] を開きます。
- 3 下記のような画面が表示されますので画面下部の[ネットワーク接続] をクリックします。



(次ページに続く)

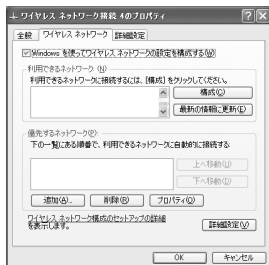
アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

4 下記のような画面が表示されますので [ワイヤレスネットワーク接続] を右クリックした後、[プロパティ] をクリックします。

(この時点では、「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンに赤い×がついている場合がありますが、作業上問題ありませんので、作業を進めてください。)



5 上部タブの「ワイヤレス ネットワーク」をクリックすると、以下の画面が表示されます。[追加] をクリックします。



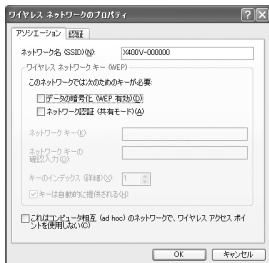
お知らせ

- この時点で「利用できるネットワーク」に調べておいたESSID（ネットワーク名）が表示される場合は、[構成] をクリックして、アクセスポイントの設定情報を確認してください。

アクセスポイントが暗号化設定をしていなければ、事前に調べておいた ESSID(ネットワーク名)を[ネットワーク名 (SSID)]に設定してください。また、[ワイヤレスネットワークキー]の[ネットワークアソシエーション]と[データの暗号化]の設定が下記の画面設定と同じことを確認してください。設定が完了しましたら[OK]をクリックしてください。[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]画面に戻ります。



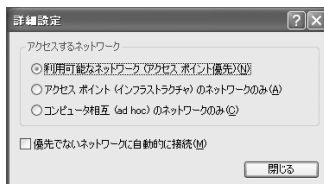
以下のような画面が表示される場合は[データの暗号化]および[ネットワーク認証]のチェックボックスがチェックされていないことを確認してください。



アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

7 「優先するネットワーク」の中から、アクセスポイントのESSID（ネットワーク名）を選択した後、[詳細設定] をクリックすると、詳細プロパティが開きます。

この項ではアクセスポイントとの接続を行いますので、一番上の [利用可能なネットワーク（アクセスポイント優先）] を選択し、[閉じる] をクリックしてください。



8 全ての情報を設定したら、[OK] をクリックした後、「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンに赤い×がついていないことを確認してください。

アイコンに赤い×がついている場合は無線LAN接続ができない状態です。再度手順を確認してください。



以上で、アクセスポイントとの無線LAN接続関連の設定は終了です。
暗号化設定を行う場合は後述の「通信内容を暗号化しましょう」をご覧ください。

Windows® 2000/Me/98SEの場合

この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。
カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。

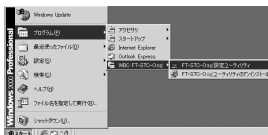


お知らせ

- Windows® XPと異なり、付属のCD-ROMよりインストールしたユーティリティを使用します。

1

タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。
もし表示されていない場合は、[スタート] ボタン → [プログラム] → [WBC FT-STC-Oag] → [FT-STC-Oag設定ユーティリティ] をクリックしてユーティリティアイコンを表示してください。



2

ユーティリティの画面が開きます。



2 無線LANを接続してみよう

(次ページに続く)

アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

- 3 上部の「設定」タブをクリックします。工場出荷時は何も入っていないので、「追加」をクリックしてネットワーク設定を行います。



- 4 ネットワーク設定を行います。プロファイル名は任意の英数字を入力してください。入力が完了したら「次へ」をクリックしてください。



- 5 事前に調べておいたアクセスポイントのネットワーク名 (ESSID) をSSIDの欄に入力します。入力が完了したら「次へ」をクリックしてください。



6

[次へ] をクリックしてください。

アクセスポイントが暗号化している場合は、後述の内容に従って認証モードを変更してください。



7

[完了] をクリックしてください。



お知らせ

- 本ユーティリティを使用してIPアドレスを設定する場合はIPアドレス設定メニューから[設定する]を選択した後、[次へ]ボタンをクリックしてIPアドレス入力画面で設定を変更してください。

(次ページに続く)

アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

- 8 設定した内容が反映されることを確認してください。リストから追加したネットワーク設定を選択した状態で、[接続]をクリックしてください。
通信をしているネットワーク名の前には  印がつけます。



- 9 上部の「設定選択」タブをクリックし、「詳細...」をクリックします。詳細情報が表示されますので「無線LAN情報」の信号強度と通信品質が表示されていることを確認した後、ウィンドウを閉じます。



以上で、アクセスポイントとの無線LAN接続関連の設定は終了です。
通信内容の暗号化設定を行う場合は、引き続き「通信内容を暗号化しましょう」をお読みください。

お知らせ

- タスクトレイに格納されているアイコンを確認することでも通信状態を確認することができます。

-  : 無線LANネットワークに接続中
-  : 無線LANネットワークを検索中

通信内容を暗号化しましょう

本商品は無線を利用しているために、ケーブルの配線工事が不要というメリットがあります。しかし通信内容の暗号化をしていない場合には、電波の届く範囲であれば通信内容を傍受される危険性が考えられます。

そのため、本商品をお使いになる際には必ずアクセスポイントと本商品の暗号化(WEP/WPA)の設定を行ってください。なお、本商品でサポートしているWPAの暗号化プロトコルはTKIPのみとなります。

アクセスポイントの設定に関しては、アクセスポイントのマニュアル(アクセスポイントにWeb Caster X400Vを使用する場合はWeb Caster X400V詳細取扱説明書の「無線設定(セキュリティ設定)」)を参照してください。

● WEP

WEP(Wired Equivalent Privacy)とは、無線LANの標準的な暗号化方式であり、ネットワークへの参加を許可する装置に対して共有キーを設定することにより、部外者からの不正アクセスを防止するものです。暗号化に必要な共有キーの長さは2種類用意されていますので、ネットワークの重要度に合わせお選びいただくか、ネットワーク管理者に確認してください。

● WPA

WPA(Wi-Fi Protected Access)とは、WEPの脆弱性を改善した暗号化方式です。ユーザ認証機能の追加や、暗号キーを一定時間毎に自動的に更新するTKIP(Temporal Key Integrity Protocol)と呼ばれる暗号化プロトコルを採用することによりセキュリティ強度が向上されています。

なお、ご使用のパソコンのOSによって、設定方法が異なりますのでご注意ください。

- OSがWindows® XPのパソコンをご使用になる場合
→ 次ページ以降のWindows® XPの場合を参照して、暗号化設定を行ってください。
- OSがWindows® 2000/Me/98SEのパソコンをご使用になる場合
→ 次ページ以降のWindows® 2000/Me/98SEの場合を参照して、暗号化設定を行ってください。



お知らせ

- ご使用のPCのOSがWindows® XPの場合に暗号化方式でWPAを使用するにはWindows® XP ServicePack1以上とWPAサポート修正プログラムを予めインストールしておく必要があります。
- WPAサポート修正プログラムについてはマイクロソフト社のサポート技術情報 815485「Windows XP の WPA ワイヤレス セキュリティ アップデートの概要」を参照してください。マイクロソフト社のホームページ(<http://www.microsoft.com/japan/>)で、「サイトの検索」欄に 815485 と入力し、[検索]をクリックすることで参照できます。

通信内容を暗号化しましょう

Windows® XPの場合

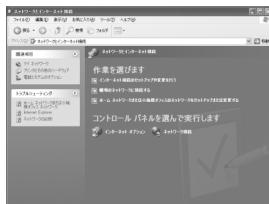
この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。
カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。



お知らせ

- Windows® XPをご使用の場合はその他のOSと異なり、XP標準のユーティリティを使用して設定を行いますので、ご注意ください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックした後、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ネットワークとインターネット接続] をクリックします。
コントロールパネルを「クラシック表示」に変更している場合は[ネットワーク接続]を開きます。
- 3 下記のような画面が表示されますので画面下部の[ネットワーク接続]をクリ
ックします。



- 4 下記のような画面が表示されますので [ワイヤレスネットワーク接続] を右クリックした後、[プロパティ] をクリックします。



- 5 上部タブの「ワイヤレス ネットワーク」をクリックすると、利用できるネットワークの一覧等が表示されます。利用するSSID（ネットワーク名）を「優先するネットワーク」の中から選択し、[プロパティ] をクリックします。



通信内容を暗号化しましょう

- 6 使用する暗号化方式（WEPまたはWPA）により設定が異なります。次ページの表の内容に従って暗号化の設定を行ってください。



下表は、Web Caster X400Vと接続することを前提として記載してあります。

設定項目	説明
ネットワーク名（SSID）	ワイヤレスネットワークのネットワーク名を入力します。
ネットワーク アソシエーション	ネットワークに対する認証を行うか否かを指定します。 [開いています]：WEPでネットワークキーを認証に使用しない場合に選択します。（Open System） [共有済み]：WEPでネットワークキーを認証に使用する場合に選択します。（Shared Key） [WPA-PSK]：WPAで事前共有キーを指定する場合に選択します。（WPA-PSK）
データの暗号化	[WEP]：WEPの暗号化方式を使用する場合に選択します。 [TKIP]：WPAの暗号化方式でTKIPを使用する場合に選択します。
ネットワークキー	ネットワークキー（WEPキー / 事前共有キー）を指定します。
キーのインデックス	ネットワークキーのインデックスを指定します。
キーは自動的に提供される	ネットワークキーの設定を行いますので本チェックボックスは選択解除してください。
これはコンピュータ相互（ad hoc）のネットワークで、ワイヤレス アクセス ポイントを使用しない	本設定項目はインフラストラクチャ・モードでは特に指定はしません。



お知らせ

- [ネットワークキー] および [キーのインデックス] を指定するときは、アクセスポイント等に設定されているネットワークキーの [キー形式] と [キー長] [キーインデックス] に従って設定してください。

7

[OK] ボタンをクリックして設定を終了します。

2

無線LANを接続してみましょう

通信内容を暗号化しましょう

Windows® 2000/Me/98SEの場合

WEPを使用する場合

この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。
カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。



お知らせ

- Windows® XPと異なり、付属のCD-ROMよりインストールしたユーティリティを使用します。

1

タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。
もし表示されていない場合は、[スタート] ボタン → [プログラム] → [WBC FT-STC-Oag] → [FT-STC-Oag設定ユーティリティ] をクリック
してユーティリティアイコンを表示させてください。



2

ユーティリティの画面が開きます。



- 3 上部の[設定]タブをクリックします。利用するネットワーク設定を選択し、[変更]をクリックします。



- 4 [プロファイル名]の設定の画面が表示されますので[次へ]をクリックして[認証モード]の設定画面まで進みます。



(次ページに続く)

通信内容を暗号化しましょう

- 5 [認証モード]、[暗号化]について次ページの内容に従って設定してください。
設定が完了したら[次へ]をクリックします。



- 6 「暗号化設定」内のパラメータが入力可能となりますので、次ページの内容に従って入力してください。
入力が完了したら[次へ]をクリックしてください。



- 7 IPアドレス設定の画面が表示されますので[完了]をクリックしてください。
以上で、暗号化の設定は終了です。

下表は、Web Caster X400Vと接続することを前提として記載してあります。

設定項目	説明												
認証モード	暗号化しない : [無効] WEPの認証方式でOpen Systemを使用する : [Open System] WEPの認証方式でShared Keyを使用する : [Shared Key] WPAの認証方式で事前共有キーを使用する : [WPA-PSK] 暗号化方式でWEPを使用する場合は[Open System]または[Shared Key]を選択します。												
暗号化	WEPの暗号化キー長が64bitの場合 : [64bit] WEPの暗号化キー長が128bitの場合 : [128bit]												
入力方法	キーの形式を選択します。 ASCIIコードに従った文字を使用するとき : 「文字」 16進数(0～9,A,B,C,D,E,F)を使用するとき : 「16進(0-9、A-F)」 Passphraseを使用するとき : 「Passphrase」 Passphrase選択した場合はASCII文字入力となります。 ネットワークキーの入力は半角文字となります。												
キー（設定値）	「キー（形式）」にあわせた暗号キーを入力します。 入力文字制限は本画面の[入力方法]および認証モード設定画面の[暗号化]の選択状態に従って切り替わります。 <table><tr><th>入力方法 暗号化</th><th>文字</th><th>16進 (0-9、A-F)</th><th>Passphrase</th></tr><tr><td>64bit</td><td>5文字</td><td>10文字</td><td>32文字以内</td></tr><tr><td>128bit</td><td>13文字</td><td>26文字</td><td>32文字以内</td></tr></table>	入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9、A-F)	Passphrase	64bit	5文字	10文字	32文字以内	128bit	13文字	26文字	32文字以内
入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9、A-F)	Passphrase										
64bit	5文字	10文字	32文字以内										
128bit	13文字	26文字	32文字以内										
デフォルトキー	デフォルトキーインデックスを1～4の範囲で指定します。 アクセスポイント側の設定が“1”の場合：“1”に設定 アクセスポイント側の設定が“2”の場合：“2”に設定 アクセスポイント側の設定が“3”の場合：“3”に設定 アクセスポイント側の設定が“4”の場合：“4”に設定 通常は“1”を指定します。												



お知らせ

- [暗号化] で指定する暗号化キーの長さは、本ユーティリティとXP標準のユーティリティで、表示内容が異なります。それぞれ以下のように読み替えてご使用ください。
 本ユーティリティ：64bit → XPユーティリティ：40bit
 本ユーティリティ：128bit → XPユーティリティ：104bit
- [デフォルトキー] で指定するネットワークキーのインデックスは、本ユーティリティと、XP標準のユーティリティで表示内容が異なります。それぞれ以下のように読み替えてご使用ください。
 本ユーティリティ："1"~"4" → XPユーティリティ："0"~"3"
 ただし、Service Pack1以上がインストールされている場合は、ともに"1"~"4"を表示します。

通信内容を暗号化しましょう

WPAを使用する場合

この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。
カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。



お知らせ

- Windows® XPと異なり、付属のCD-ROMよりインストールしたユーティリティを使用します。

1

タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。
もし表示されていない場合は、[スタート] ボタン → [プログラム] → [WBC FT-STC-Oag] → [FT-STC-Oag設定ユーティリティ] をクリックしてユーティリティアイコンを表示させてください。



2

ユーティリティの画面が開きます。



- 3 上部の[設定]タブをクリックします。利用するネットワーク設定を選択し、[変更]をクリックします。



- 4 [プロフィール名]の設定画面が表示されますので[次へ]をクリックして[認証モード]の設定画面まで進みます。



(次ページに続く)

通信内容を暗号化しましょう

- 5 [認証モード]のメニューから[WPA-PSK]を選択し、[入力方法]メニューから[TKIP]を選択し、[次へ]をクリックします。



- 6 ネットワークキー（事前共有キー）を入力してください。
入力が完了したら[次へ]をクリックしてください。



- 7 IPアドレス設定の画面が表示されますので[完了]をクリックしてください。

以上で、暗号化の設定は終了です。

他の無線LANステーションカードと 通信しましょう(アドホック・モード)

アクセスポイントを介さずに本商品とほかの無線LANステーションカード等の間で直接通信する場合(アドホック・モード)の設定方法について説明します。
ここに記載するアドホック・モードとは802.11に準拠したものを指します。

- 1 他の無線LANアダプタを搭載した端末を電源を入れた状態で設置します。
- 2 任意のSSID(ネットワーク名)を決めます。既設のネットワークに接続する際には、管理者にお問い合わせいただき、SSID(ネットワーク名)を確認してください。
- 3 本商品、および他の無線LANアダプタに同じSSID(ネットワーク名)を設定してください。



お知らせ

- 無線LANを使用したネットワーク機器が複数存在した場合、それぞれのネットワークで別々のチャンネルを設定する必要があります(相互干渉を防止するため)。通信チャンネルの設定値が重なった場合、相互に通信内容が漏れる可能性もあるため、十分に注意してください。

なお、ご使用のパソコンのOSによって、設定方法が異なりますのでご注意ください。

- OSがWindows® XPのパソコンをご使用になる場合
→ 次ページ以降のWindows® XPの場合を参照してください。
- OSがWindows® 2000/Me/98SEのパソコンをご使用になる場合
→ 次ページ以降のWindows® 2000/Me/98SEの場合を参照してください。

Windows® XPの場合

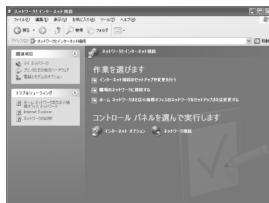
この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。ネットワークに参加させたい全てのPCの電源を入れ、カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。



お知らせ

- Windows® XPをご使用の場合はその他のOSと異なり、XP標準のユーティリティを使用して設定を行いますので、ご注意ください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックした後、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ネットワークとインターネット接続] をクリックします。
コントロールパネルを「クラシック表示」に変更している場合は[ネットワーク接続]を開きます。
- 3 下記のような画面が表示されますので画面下部の[ネットワーク接続]をクリックします。



4

下記のような画面が表示されますので [ワイヤレスネットワーク接続] を右クリックした後、[プロパティ] をクリックします。

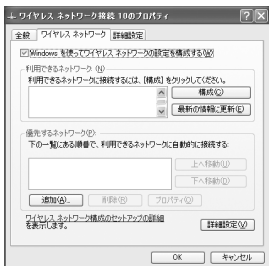
この時点では、「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンに赤い×がついている場合がありますが、作業上問題ありませんので、作業を進めてください。



5

上部タブの「ワイヤレス ネットワーク」をクリックして、「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」を表示します。この状態で、

- ・ 1 台目の設定を行う場合、SSID を新規登録する必要がありますので、[追加] ボタンをクリックします。
- ・ 2 台目以降、もしくは既存のネットワークに参加させたい場合は、「利用できるネットワーク」から SSID (ネットワーク名) を選択し、[構成] をクリックします。



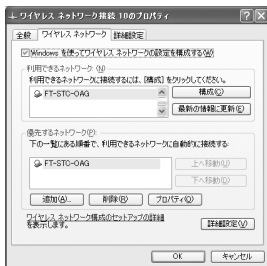
(次ページに続く)

他の無線LANステーションカードと通 信しましょう（アドホック・モード）

- 6 「ネットワーク名（SSID）」の欄にSSID（ネットワーク名）を設定すると共に、「これはコンピュータ相互（ad hoc）のネットワーク・・・」にチェックを設定した後に、[OK] をクリックします。



- 7 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」の「優先するネットワーク」の中に、設定したSSID（ネットワーク名）が表示されることを確認して、[OK] を押し、設定を完了します。



ネットワークに参加させる全てのPCに同様の設定を行ってください。



お知らせ

- 無線LAN規格やチャネルの選択はできません。
IEEE802.11a、34チャネルを優先して使用します。

Windows® 2000/Me/98SEの場合

この時点で、ドライバのインストールが完了し、カードがPCスロットに挿入されているものとします。
ネットワークに参加させたい全てのPCの電源を入れ、カードのPOWERランプが点滅していることを確認してください。



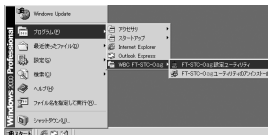
お知らせ

- Windows® XPと異なり、付属のCD-ROMよりインストールしたユーティリティを使用します。

1

タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。

もし表示されていない場合は、[スタート] ボタン → [プログラム] → [WBC FT-STC-Oag] → [FT-STC-Oag設定ユーティリティ] をクリックしてユーティリティアイコンを表示します。



2

ユーティリティの画面が開きます。



他の無線LANステーションカードと 通信しましょう（アドホック・モード）

- 3 上部 [設定] タブをクリックします。ここで [追加] をクリックしてネットワーク設定を行います。



- 4 ネットワーク設定を行います。「プロフィール名」は任意の英数字を入力してください。入力が完了したら [次へ] をクリックしてください。



- 5** 表示された画面の[ネットワーク名 (SSID)]を入力します。その後、[通信モード]メニューで[802.11アドホック]を選択し、[通信速度]、[チャンネル]も設定してください。

入力が完了したら[次へ]をクリックします。



- 6** 認証モードの設定画面が表示されますので[次へ]をクリックしてください。
暗号化を行う場合は、前述の「通信内容を暗号化しましょう」の項を参照してください。



(次ページに続く)

他の無線LANステーションカードと 通信しましょう(アドホック・モード)

7 [完了]をクリックしてください。



お知らせ

- 本ユーティリティを使用し、IPアドレスを設定する場合はIPアドレス設定メニューから[設定する]を選択した後、[次へ]ボタンをクリックしてIPアドレス入力画面で設定を変更してください。

8 設定した内容が反映されることを確認してください。2台以上のPCに設定が終了した時点で、リストから追加したネットワーク設定を選択した状態で、[接続]をクリックしてください。

通信をしている[ネットワーク名]の前には  が表示されます。



ネットワークに参加させる全てのPCに同様の設定を行ってください。



お知らせ

- タスクトレイに格納されているアイコンを確認することでも通信状態を確認することができます。



: 無線LANネットワークに接続中



: 無線LANネットワークを検索中

- 無線LAN規格やチャネルの選択はできません。
IEEE802.11b、1チャネルを優先して使用します。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

ここでは、OSがWindows® 2000/Me/98SEのパソコンをご使用になる場合
のユーティリティソフトについて、くわしい内容をご紹介します。

1. 設定選択

1.1 設定選択画面

本商品とアクセスポイント
等とのリンク状態を表
示します。

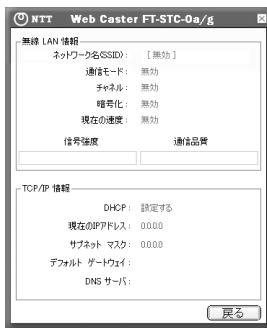


項目名	意味
現在の設定	現在、本製品に設定したネットワークのプロファイル名が表示されます。
機能ボタン	
詳細ボタン	[現在の設定]からプロファイル名を選択して[詳細]ボタンをクリックすると対応するネットワークの状態を表示します。

インフラストラクチャ・モード	
	通常はこの状態になります。 この状態ではアクセスポイントを経由した無線LANとインターネット接続の両方がご利用になれます。
	ご使用のパソコンとアクセスポイントの間は接続が完了していますが、アクセスポイントとインターネット (DNSサーバ) の接続が出来ていません。 この状態では無線LAN接続のみご利用できます。
	ご使用のパソコンとアクセスポイントの間で接続が行われていません。 この状態では無線LANとインターネット接続が共にご利用できません。
アドホック・モード	
	通常はこの状態になります。 この状態ではアクセスポイントを経由しない無線LAN通信がご利用になれます。
	他の無線LAN機器との接続が確立できていません。 この状態では無線LAN通信はご利用になれません。

1.2 詳細画面

リンクの状態とネットワーク設定について詳細な情報を表示します。



[無線LAN情報] ネットワークの状態を表示します。	
ネットワーク名(SSID)	無線LAN通信で使用するネットワーク識別用IDを表示します。ネットワーク毎にSSIDを設定することにより参加できる子機を制限することができます。接続が確立できていない場合は[無効]と表示します。
通信モード	通信モードを表示します。 ・インフラストラクチャ・モード： 本商品を搭載した機器からアクセスポイントを介し、無線LAN上で通信を行います。 ・アドホックモード： アクセスポイントを介さずに、本商品を搭載した機器とほかの機器が直接通信を行います。接続が確立できていない場合は[無効]と表示します。
チャネル	使用している通信チャネルを表示します。
暗号化	暗号化設定を表示します。 無効 : 暗号化設定なし 64bit : WEPの暗号化キー長64bit使用 128bit : WEPの暗号化キー長128bit使用 TKIP : TKIP使用
現在の速度	現在の通信速度(1~54Mbps/sec)を表示します。接続が確立できていない場合は[無効]と表示します。
信号強度	接続中の無線LANの信号強度を表示します。
通信品質	接続中の無線LANの通信品質を表示します。
[TCP/IP情報] ネットワークアドレス情報を表示します。	
DHCP	本商品のDHCPの使用有無を表示します。 設定する : DHCP設定 設定しない : 固定IP設定
現在のIPアドレス	本商品のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本商品のサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのアドレスを表示します。
DNSサーバ	DNSサーバアドレスを表示します。
機能ボタン	
戻るボタン	本画面を閉じて設定選択画面に戻ります。

2. 無線LANモニター

2.1 無線LANモニター画面

本商品と接続可能なアクセスポイント等の情報をリスト表示します。



ネットワーク名	アクセスポイント等のSSIDを表示します。
バンド	アクセスポイント等が使用している無線LAN規格を表示します。 A : IEEE802.11aを使用しています。 B : IEEE802.11bを使用しています。 G : IEEE802.11gを使用しています。
信号	アクセスポイント等の信号強度を表示します。 (単位 : %)
【無線LAN情報】リストから選択したアクセスポイント等の情報を表示します。	
通信モード	通信モード (インフラストラクチャモード / アドホックモード) を表示します。
チャネル	使用している通信チャネルを表示します。
暗号化	使用している暗号化設定を表示します。 有効 : 通信データの暗号化を行っています。 無効 : 通信データの暗号化を行っていません。
MACアドレス	アクセスポイントのMACアドレスを表示します。
機能ボタン	
接続ボタン	リストから選択したアクセスポイント等に接続します。 暗号化設定されている場合はボタンは無効になります。
更新ボタン	リストに表示されているアクセスポイント等の情報を更新します。

3. 設定

3.1 設定画面

本商品に設定したネットワークのプロファイル情報をリスト管理します。また接続ボタンでアクセスポイント等に接続します。



プロファイル名	プロファイル名を表示します。
ネットワーク名	ネットワークのSSIDを表示します。
[無線LAN情報] リストから選択したアクセスポイント等の情報を表示します。	
通信モード	通信モード（インフラストラクチャモード / アドホックモード）を表示します。
チャンネル	使用している通信チャンネルを表示します。
暗号化	暗号化設定を表示します。 有効：通信データの暗号化を行っています。 無効：通信データの暗号化を行っていません。
IPアドレス設定	IPアドレス設定を表示します。 無効：DHCP設定 有効：固定IP設定
機能ボタン	
追加ボタン	プロファイルを新規作成します。
変更ボタン	リストで選択したプロファイルを変更します。
削除ボタン	リストで選択したプロファイルを削除します。
接続ボタン	リストから選択したアクセスポイント等に接続します。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3.2.1 プロファイル名設定画面 プロファイル名を設定します。



プロファイル名	プロファイル名を設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	本ボタンはご使用できません。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

3.2.2 ネットワーク設定画面

ネットワーク名、通信モード、通信速度、チャンネルを設定します。



ネットワーク名 (SSID)	アクセスポイント等のSSIDを設定します。 アクセスポイント等にそれぞれSSIDを設定することにより参加できる子機を制限することができます。
通信モード	通信モード (インフラストラクチャ / 802.11アドホック) を設定します。
通信速度	通信速度を指定します。 本ユーティリティで選択できるのは自動のみとなります。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を行います。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3.2.3 認証モード設定画面

セキュリティ関連の情報を設定します。

- 認証モードでOpen SystemまたはShared Key
を選択した場合
- 認証モードでWPA-PSKを選択した場合



認証モード	認証方式を設定します。 [無効] : 暗号化をしない場合に選択します。 [Open System] : WEPの暗号化方式でOpen Systemを使用する場合に選択します。 [Shared Key] : WEPの暗号化方式でShared Keyを使用する場合に選択します。 [WPA-PSK] : WPAの暗号化方式を使用しPre-Shared Keyを使用する場合に選択します。
暗号化	[認証モード] でOpen SystemまたはShared Keyが選択された場合にネットワークキーの長さ(64bits / 128bits)を設定します。
入力方法	[認証モード] でWPA-PSKが選択された場合に設定できます。TKIPを指定してください。 本ユーティリティで選択できるのはTKIPのみとなります。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

3.2.4 ネットワークキー（WEP）設定画面

[認証モード] でOpen SystemまたはShared Keyを選択した場合に表示されます。
ネットワークキーの入力方法、ネットワークキー、デフォルトキーインデックスを設定します。



入力方法	ネットワークキーの入力方法を設定します。 [文字] : ネットワークキーをASCII文字で入力する場合に設定します。 [16進 (0-9,A-F)]: ネットワークキーを16進数で入力する場合に設定します。 [Passphrase]: ネットワークキーをPassphraseとして入力する場合に設定します。 ASCII文字で入力してください。 ネットワークキーの入力は半角文字となります。												
ネットワークキー	[入力方法] で指定した形式でネットワークキーを入力します。 入力文字制限は本画面の[入力方法]および認証モード設定画面の[暗号化]の選択状態に従って切り替わります。 <table><tr><td>入力方法 暗号化</td><td>文字</td><td>16進 (0-9, A-F)</td><td>Passphrase</td></tr><tr><td>64bit</td><td>5文字</td><td>10文字</td><td>32文字以内</td></tr><tr><td>128bit</td><td>13文字</td><td>26文字</td><td>32文字以内</td></tr></table>	入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9, A-F)	Passphrase	64bit	5文字	10文字	32文字以内	128bit	13文字	26文字	32文字以内
入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9, A-F)	Passphrase										
64bit	5文字	10文字	32文字以内										
128bit	13文字	26文字	32文字以内										
デフォルトキー	アクセスポイントで設定しているデフォルト送信キーのインデックス (1 ~ 4) を設定します。												
機能ボタン													
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。												
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。												
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。												

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3.2.5 ネットワークキー（WPA）設定画面

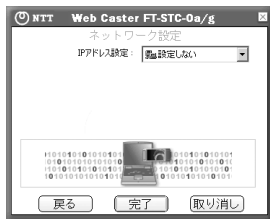
[認証モード] でWPA-PSKを選択した場合に表示されます。ネットワークキー（事前共有キー）を設定します。



ネットワークキー	ネットワークキー（事前共有キー）を設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

3.2.6 IPアドレス設定画面

IPアドレス設定を変更するか否かを指定します。



IPアドレス設定	IPアドレス設定を変更する場合に[設定する]を選択します。 [設定しない] : IPアドレス設定を変更しないときに選択します。 本画面で設定は完了となります。 [設定する] : IPアドレス設定を変更するときに選択します。 [次へ]をクリックしてIPアドレス入力画面でネットワークアドレス設定を行ってください。 本ユーティリティでIPアドレスを設定する場合は[IPアドレス設定]メニューから[設定する]を選択して設定を変更してください。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
完了ボタン	プロファイル設定が完了となります。設定画面に戻ります。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3.2.7 IPアドレス入力画面

DHCPの使用有無とアドレス情報の設定を行います。



DHCP状態	アクセスポイント等と通信に使用するIPアドレスの設定方法を設定します。 [設定する] : DHCPを使用してIPアドレスを設定します。 [設定しない] : 自動的にIPアドレスを設定します。
IPアドレス	IPアドレスを設定します。
サブネット マスク	サブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのアドレスを設定します。
DNSサーバ	DNSサーバアドレスを設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
完了ボタン	プロファイル設定が完了となります。設定画面に戻ります。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

4. 製品情報画面

本商品の製品情報を表示します。



ユーティリティのバージョン	ユーティリティのバージョンを表示します。
ドライバのバージョン	ドライバのバージョンを表示します。
ファームウェアのバージョン	ファームウェアのバージョンを表示します。
MACアドレス	本商品のMACアドレスを表示します。

2

無線LANを接続してみましょう

3 付録

トラブルシューティング	3-2
インストールの状態を確認するには ..	3-4
本商品をPCから取り外す場合は	3-6
本商品（ソフトウェア）を 削除する場合は	3-7
用語解説	3-11
索引	3-15

トラブルシューティング

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、こちらをお読みください。

該当項目がない場合や対処をしても問題が解決しない場合は、本商品をパソコンから取り出して次ページ以降のソフトウェアのアンインストールを行い、再度インストールされることをお勧めします。

その際、再インストールを行うと、プロファイルのデータ等が消去されますのでご注意ください。

症 状	原因と対策
ドライバがインストールできない	ご使用のパソコンで本商品ではサポートしていないOSを使用している可能性があります。 ●ご使用になるパソコンのOSが本商品でサポートしているものであることを確認してください。本商品でサポートしているOSに関しては、FT-STC-Oa/g取扱説明書の「1 最初に確認しましょう 動作環境を確認してください」を参照してください。
	全てのソフトウェアを終了していない可能性があります。 ●本商品のドライバをインストールする時には、あらかじめ起動しているソフトウェアを全て終了する必要があります。セキュリティソフト（ウイルスチェックプログラム等）についても忘れずに終了してからインストールを実施してください。
	本商品以外の無線LANドライバがインストールされている場合は正常にインストールが完了しない可能性があります。 ●インストール済みの無線LANドライバをアンインストールした後、再度インストールを試みてください。
	パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合は正常にインストールが完了しない可能性があります。 ●ドライバのインストール完了後に本商品をパソコンに挿入して、再度インストールを試みてください。

症 状	原因と対策
インターネットができない	無線通信ができる アクセスポイントに問題がある可能性があります。 ● アクセスポイントに設定されている設定情報を確認してください。WAN側の設定に誤りがあるか、設定を行っていないことが考えられます。設定情報の詳細に関してはWeb Caster X400Vの詳細取扱説明書を参照してください。
無線通信ができない (POWERランプとLINKランプが交互に点滅している)	アクセスポイントの電源が入っていない可能性があります。 ● アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
	アクセスポイントにカードが正常に挿入されていない可能性があります。 ● アクセスポイントのPCカードスロットの奥まで正しくカードが挿入されていることを確認してください。
	設置場所に問題がある可能性があります。 ● 電波の届く範囲にアクセスポイントがあることを確認してください。 ● 本商品の設置場所を変えてみてください。
	アクセスポイントの情報が本商品に設定されていないか、または設定が誤っている可能性があります。 ● ユーティリティにて本商品に設定しているアクセスポイントの設定情報 (ESSIDや暗号化設定など) を確認してください。設定情報に関しては本書「無線LANを接続してみましょう」を参照してください。
	他の通信機器と電波干渉が発生している可能性があります。 ● 通信に使用しているチャネルを変更してみてください。設定情報に関しては本書「無線LANを接続してみましょう」を参照してください。
無線通信ができない (POWERランプとLINKランプが共に消灯している)	アクセスポイントが故障している可能性があります。 ● アクセスポイントが正常に動作していることを確認してください。 カードに電源が入っていません。 ● PCカードスロットの奥まで正しく挿入してください。 ● PCカードスロットが複数ある場合には、他方に差し替えてみてください。カードスロットの動作が不安定な可能性もあります。

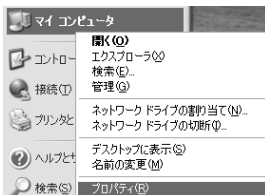
上記の対応で問題が解決しない場合はドライバをアンインストールした後、再度インストールを実施してください。

インストールの状態を確認するには

ドライバソフトのインストールが確実に行われていて、正常に使用できることを確認する方法を示します。

以下の画面例は、Windows® XPの場合について説明しています。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[マイコンピュータ] 上で右クリックして [プロパティ] を選択します。



お知らせ

- XP以外のOSをお使いの場合は、[マイコンピュータ]のアイコンはデスクトップ上にあります。

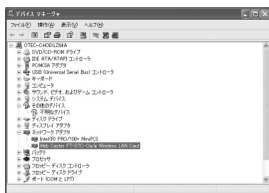
- 2 「システムのプロパティ」の画面上の [ハードウェア] タブをクリックします。



3 デバイスマネージャの項の [デバイスマネージャ] をクリックします。



4 「デバイスマネージャ」の「ネットワーク アダプタ」をダブルクリックし、「Web Caster FT-STC-Oa/g Wireless LAN Card」があることを確認します。

 **お知らせ**

- もし「Web Caster FT-STC-Oa/g Wireless LAN Card」のアイコンの前に「！」マークがついている場合は、何らかの問題が発生しています。
その際には、PCの再起動をしたり、ドライバの再インストールを行ってください。

本商品をPCから取り外す場合は

本商品は、PCの電源がOFFの際にはいつでもPCカードスロットから取り外すことができます。

また、PCの電源がONの状態でご使用中の状態においても、下記の作業を行うことによりPCカードスロットから取り外すことができます。



注意

本商品を取り外す際には、アクセス状態でないことを確認した後に、以下の説明に従って取り外してください。

以下の画面例は、Windows® XPの場合について説明しています。

- 1 画面右下のタスクトレイのPCカードスロットのアイコン  をクリックします。

OSによっては、アイコンの形が異なりますので、注意してください。

- 2 接続されているPnP機器リストの中から、本商品をクリックします。



- 3 下記のようなコメントが出ることを確認してください。



- 4 PCカードスロットから本商品を取り出します。



お知らせ

- 再度ご使用になる場合は、そのまま挿入すると自動的にカードを再認識します。

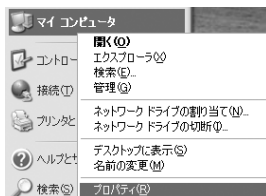
本商品（ソフトウェア）を 削除する場合は

本商品をご使用になるためにインストールされた、各ソフトウェアをアンインストール（削除）する方法についてご説明します。インストールされたソフトウェアには、「ドライバソフト」と「ユーティリティソフト」の2種類があり、OSにより一部内容が異なりますのでご注意ください。

●ドライバソフトの削除

以下の画面例は、Windows® XPの場合について説明しています。

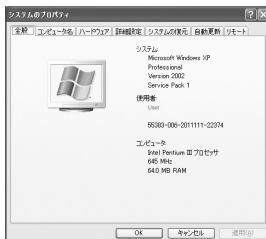
- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[マイコンピュータ] 上で右クリックして [プロパティ] を選択します。



お知らせ

- XP以外のOSをお使いの場合は、[マイコンピュータ]のアイコンはデスクトップ上にあります。

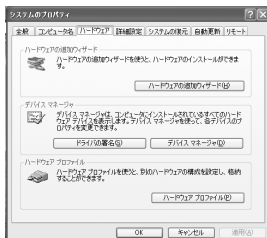
- 2 「システムのプロパティ」の画面上の [ハードウェア] タブをクリックします。



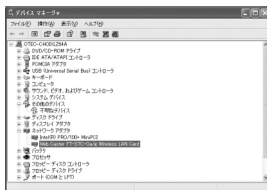
（次ページに続く）

本商品（ソフトウェア）を 削除する場合は

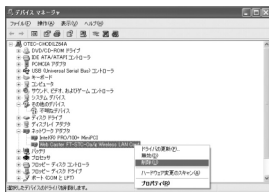
- 3** デバイスマネージャの項の「デバイスマネージャ」をクリックします。



- 4** 「デバイスマネージャ」の「ネットワーク アダプタ」をダブルクリックし、「Web Caster FT-STC-Oa/g Wireless LAN Card」があることを確認します。



- 5** 「Web Caster FT-STC-Oa/g Wireless LAN Card」をクリックして選択し、右クリックで [削除] を選択します。



- 6** 削除の確認のウィンドウが開きますので、[OK] をクリックすると削除が開始されます。



本商品（ソフトウェア）を 削除する場合は

●ユーティリティソフトの削除

本作業は、Windows® XP以外のOSをご使用の場合に関係があります。

以下の画面例は、Windows® 2000の場合について説明しています。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「WBC FT-STC-Oag」のメニューから、「FT-STC-Oagユーティリティのアンインストール」をクリックします。

2 以下のようなウィザードのウィンドウが開きますので、[削除] を選択して「次へ」をクリックします。



3 ユーティリティソフトの削除が終了すると「セットアップの完了」のウィンドウが開きますので、ドライブから本商品を取り出してから、[完了] をクリックしてください。ご使用のパソコンの状態によっては、再起動の必要があります。

以上でユーティリティソフトの削除は完了です。



用語解説

本書に出てくる通信・ネットワークに関する用語を中心に解説します。

【アルファベット順】

DHCP
(Dynamic Host Configuration
Protocol)

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCPサーバはネットワークのDHCPクライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DNS
(Domain Name System)

TCP/IPネットワークで使われ、コンピュータについて名前と実際のアドレスを関連付けるシステムです。

DNSサーバ

ネットワークのグループについて名前を問い合わせると、そのIPアドレスを教えてくれるサーバのことです。DNSサーバを使用することにより、WWWブラウザなどのアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。（IPアドレスの数値を直接入力する必要がなくなります。）

DSSS
(Direct Sequence Spectrum
Spread スペクトラム直接
拡散方式)

無線通信方式の一つで、小電力で広い帯域に分散した信号を同時送信します。
ノイズが少なく、他の通信を妨害しにくい、また傍受を受けにくいという特徴があります。本装置はIEEE802.11bに準拠しています。

ESSID（ネットワーク名）

Extended Service Set IDの略。
後述のSSIDと同義です。本書では、アクセスポイントとしてWeb Caster X400Vを例にとった場合に、特にこの呼び方になっています。

IEEE802.11

IEEE802.11は無線LAN通信に関する国際標準規格の一つです。この規格を拡張したものとしてIEEE802.11a/802.11b/802.11gがあります。

IEEE 802.11a

IEEE802.11を拡張した無線LAN通信に関する国際標準規格です。最大速度54Mbpsによる通信が可能です。5.2GHz帯の電波を使用しますので、法令により屋外での使用は禁止されています。

IEEE802.11b

IEEE802.11を拡張した無線LAN通信に関する国際標準規格です。最大速度11Mbpsによる通信が可能です。2.4GHz帯の電波を使用します。

（次ページに続く）

用語解説

IEEE802.11g	IEEE 802.11bに、IEEE 802.11aの高速化技術を取り入れたものです。 最大速度54Mbpsによる通信が可能です。2.4GHz帯の電波を使用します。
IPアドレス	TCP/IPプロトコルを使用して構築されるネットワークで、接続されているすべての機器を区別するためにつけられたアドレス(番地)のことです。
LAN (Local Area Network)	ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。
MACアドレス (Media Access Control Address)	Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。 MACアドレスは先頭から3バイトのベンダーコードと、残り3バイトのユーザコードの6バイトで構成されています。 ベンダーコードはIEEEが管理/割当を行っており、ユーザコードはEthernet機器のメーカーが独自番号(重複することのない)で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。
OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing 直行周波数分割多重方式)	無線通信方式の一つで、多数の搬送波を用いることにより、狭い帯域内でも効率の良い通信を実現します。ノイズの多い帯域を避けて通信するという特徴があります。本装置はIEEE802.11a/gに準拠しています。
SSID (ネットワーク名)	Service Set IDの略で、無線のサービスエリア内に複数のネットワークが存在する場合に、グループごとにSSIDを設定して他の人からのアクセスを防ぐためのIDです。 本書では特にアクセスポイントの場合、ESSID (ネットワーク名)と記載しています。
TKIP (Temporal Key Integrity Protocol)	従来の暗号化であるWEPの脆弱性を克服するために、キーを自動的に変更して暗号化を行うように改良された暗号化方式の1つです。 定期的に使用する暗号キーを変更するために、キーの解析が困難となりWEPより強固なセキュリティとなります。
WEP (Wired Equivalent Privacy)	IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式。 各無線通信機器どうしが共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。40 bit の鍵では約1兆通りの暗号化が可能のため、暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加できません。

WEPキー

WEPで使用する暗号キー。40ビット長と104ビット長のデータを使用する方式があります。このキーを元に受信データを暗号化します。

**WPA
(Wi-Fi Protected Access)**

無線LANの業界団体であるWi-Fi Allianceが発表した無線LANの暗号化方式の規格です。従来の無線LANのもつ問題点としてあげられていた「ユーザ認証機構が存在しないこと」「暗号キー（WEPキー）が基本的に固定になっていること」などの弱点を補強すべく、これらのプロトコルの標準的な実装を定めています。具体的には、従来のSSIDとWEPキーに加えて、ユーザ認証機能を備え、暗号キーを一定時間毎に自動的に更新する機能についてTKIPと呼ばれる暗号化方式を採用するなどの改善が加えられています。

WPAのユーザ認証機能で認証サーバを使用しない方式を「WPA-PSK」と呼びます。

**WPA-PSK
(Wi-Fi Protected Access
Pre-Shared Key)**

WPAにおける認証方式の1つであり、認証サーバを使用しない方式を指します。

事前共有キー（Pre-Shared Key）と呼ぶ共有キーを使用して認証を行います。

AESやTKIPなどの暗号化方式で使用します。共有キー自体を指す場合もあります。

【あいうえお順】**アクセスポイント**

インフラストラクチャモードでの通信の中継点となるポイントです。有線LAN接続のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで無線LAN接続のパソコンと通信します。

**アドホック・モード
(Adhoc Mode)**

アクセスポイントを介さずに、本商品等を実装したパソコン同士が直接無線LAN上で通信を行う形態を指します。

**インフラストラクチャ・モード
(Infrastructure Mode)**

アクセスポイント（本書ではWeb Caster X400Vを例に記載しています）を介して、無線LAN上で通信をする形態を指します。

ゲートウェイ

通信手順が異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。

サブネットマスク

LANで使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IPアドレスと組み合わせる値です。

（次ページに続く）

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

複数の無線LANを狭いエリアで同時使用する場合は、それぞれに異なる周波数を割り当てないと、無線干渉が発生して、通信速度が遅くなる場合があります。

その場合、なるべく各チャンネル同士の帯域が重ならないような使用を推奨します。

リンク

各機器間を接続することです。

アルファベット

ESSID 2-2、3-11、3-12
 IEEE802.11a 3-11
 IEEE802.11b 3-11
 IEEE802.11g 3-12
 PSK 3-13
 TKIP 2-11、3-12
 Web Caster X400V 2-2、2-11
 WEP 2-2、2-11、2-16、3-12
 Windows® 2000
 1-6、2-7、2-16、2-27、2-31
 Windows® 98SE
 1-9、2-7、2-16、2-27、2-31
 Windows® Me
 1-9、2-7、2-16、2-27、2-31
 Windows® XP 1-3、2-3、2-12、2-24
 WPA 2-11、2-20、3-13

五十音

【ア行】

アクセスポイント 2-2、3-13
 アドホック 2-23、2-24、2-27、3-13
 暗号化 2-11、2-12、2-16、2-20
 インストール
 1-2、1-3、1-6、1-9、3-4、3-7
 インフラストラクチャ 2-2、3-13

【サ行】

事前共有キー（共有キー） 2-2、3-13
 周波数 3-14

【タ行】

チャンネル 2-23、3-14
 ドライバ
 1-2、1-3、1-6、1-9、3-4、3-7

【ヤ行】

ユーティリティ 2-31、3-10

注 意

本商品は、外国為替および外国貿易法が定める規制貨物に該当いたします。

本商品は、国内でのご利用を前提としたものでありますので、日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可等必要な手続きをお取りください。

NOTICE

This product, which is intended for use in Japan, is a controlled product regulated under the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission, as required by the Law and related regulations, from the Japanese Government.

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ： <http://www.ntt-east.co.jp/ced/>

使い方等でご不明点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：

- NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様



0120-970413

- NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様



0120-109217

電話番号をお間違えにならないように、ご注意ください。